



### ヴォーリス来日100周年 記念特集

この財源は、ご承知の建築事務所や製菓会社運営の成功によるものです。今言いたいのは、いかにヴォーリスの経営能力が優れていたかではなく、いかに彼が人づくり、街づくりに力を注いだかということです。建築事務所を運営していたヴォーリスは著書『吾家の設計』で以下の様に論じています。



#### (子ども) に関して

■ご覧なさい、鳥が二羽夫婦になる、巣ができあがる。この鳥の巣こそ住宅の根本問題です。彼らの家を建てる根本問題は、言うまでもなく子どものためです。

■子どもがうるさい…、そんな気分であつたら、はじめから子どもの教育は零です。

#### (寝室) に関して

■吾家が、他のどこよりも居心地のよい、愉快なところだと気がつけば、子どもはいろんなところに行く筈もなく、従って道楽もしません。墮落もしません。

■子どもの健康を望むなら少なくとも寝室は二階に設備してやることです。階段は無論明るく、そしてゆっくり上がるようにしなければなりません。



吉田邸玄関ホール(近江八幡)▶



### 建築作品として、奇をてらうのではなく「人への思いやり」に満ちたヴォーリスの建築

ヴォーリスが設計を手がけた建物は、学校、図書館、病院、郵便局、銀行、デパート、ホテル、教会、個人住宅、など1600(～1942年)を数えることができます。美しく、機能的であり、コストパフォーマンスに優れたヴォーリスの建物。



近江療養院 鶴翼山の麓、左は本館(大正7年/1918)、右は新生館(昭和10年/1935)

関東大震災の時、被災した地域のヴォーリスが手がけた建物は頑丈で、ほとんど被害を受けなかったと記録にあります。



同志社大学 アーモスト館 外観



現在の近江兄弟社学園/小学校正門から見る校舎

現存する建物を思い起こしてみると患者のころを気づかう造りの病院。宿泊客の心が和むことで知られ、文化人が愛用するホテル。いまだに集

その幼稚園は今では高校まで一貫した学園を形成しています。幼児期から始める人づくり。それは街中の大人たちがひとつになって

子どもたちのあたたかい心をはぐくみてよという地域システムです。そうすることによって大人同士の共感も保てるわけです。こうした、良好な地域のコミュニティーこそ、まさに今さまざま地域が求めているものだと思います。

ヴォーリスの少し前の世代に同じくクリスチャンで幼児期からの子どもの教育に対して「予防教育」という

ことを用いた教育者がいます。「いつも子どものそばにいて、親の愛情を子どもがどのように受け止めているかを推し量りなさい」というのが基本となっています。

そうしたことが

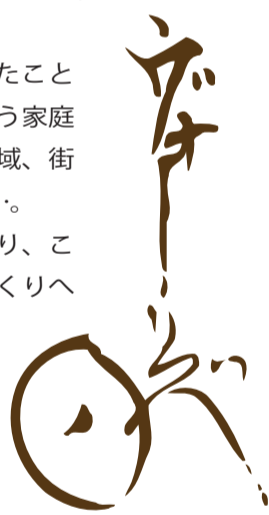
がこちらの通い合う家庭を築き、それが地域、街へと広がっていく…。まさに、予防となり、こころゆたかな街づくりへとつながるのです。

### 家族とは…人の道とは… 良好な地域のコミュニティーこそ問題解決の原点

近江八幡に都市の機能を担う施設の建設を進める一方で、ヴォーリスはさらに人づくりを進めました。コミュニケーションの最小単位、それは家庭です。家庭のあり方を説き次にそれぞれの家庭が集まって構成する地域(集落)、そして街へと…。

家族とは何か、人の道を説きつつ、人づくりを進めたのです。高校の英語の教師から始めて高校生、社会人に宗派を超えたキリスト教の伝道、さらに進めて、原点に近い部分で幼児の教育を手がけたのです。

ヴォーリスのサイン  
ヴォーリスは度々、丸を描いてその中に点を打ち、近江八幡は世界の中心であるという、彼の決意とも言うべき世界観を示した。



ヴォーリス夫妻

### ヴォーリスがこの地に残した人づくり、街づくりの基本をいかに継承、発展させるかが課題

いま、全国的にも、地球規模的にも、豊かで、後世に継承すべき貴重な自然環境を持つ滋賀県。そこには人づくり、街づくりにひたむきに生きる人々がいます。しかし、現代における文化は、ヴォーリスをしてその創造をはるかにしのぐ勢いで高度に成長と発展を遂げています。

思いを受け継ぎ、その精神を着実に継承している人たちがそれぞれの分野にいらっしゃるわけですが、そうした人たちの努力に敬意を払うとともに、この精神を次の時代に引き継ぐことを忘れてはならないのです。この街に暮らす市民の意識、理解がその強力な原動力となることを忘れないでほしいと思います。

文/小山耕一  
NHK大阪チーフディレクター  
武庫川女子大学教育研究所  
カウンセリンググループ研修相談員

くわしくはこちらから▶gaido.jp/0372

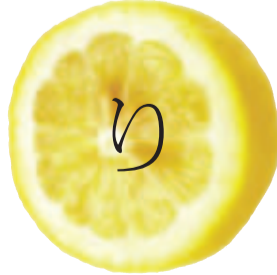


撮影協力:近江兄弟社学園/近江兄弟社小学校

### ヴォーリスの年譜

邦暦	西暦	年齢	年譜
1880	1880	0	10月28日、米国カンザス州レブンワースで、父ジョン・ヴォーリス、母ジュリア・ヴォーリスの長男として生まれる
1882	1882	2	この頃から両親に伴われて礼拝に出席し、後日洗礼を受ける
1886	1886	6	生来病弱であったため、一家揃ってアリゾナ州フラッグスタッフへ移住
1896	1896	16	コロラド州デンバーに転居
1900	1900	19	イースト・デンバー高校卒業、コロラド大学入学。YMCA活動開始
1902	1902	21	カナダのトロントで開かれた学生宣教義勇軍の大会に出席。テイラー女史の講演に感動し、外国伝道への献身を決意する
1904	1904	23	コロラド大学卒業。宣教のため、ニューヨークの国際YMCA本部に就職先を依頼
1905	1905	24	サンフランシスコ港から出港、1月29日來日
1906	1906	25	2月2日、近江八幡に到着。滋賀県立商業学校(現滋賀県立八幡商業高校)の英語科の教師となる。
1907	1907	26	2月8日、ヴォーリス宅にて最初のパイブルクラスを開く
1908	1908	28	病気のため短期間帰米
1908	1908	28	八幡YMCA会館建設。英語教師解職『The Omi Mustard Seed』を創刊
1910	1910	30	京都三条YMCAの一室で、建築設計監督事務所開業(後にヴォーリス建築事務所)
1918	1918	37	結核療養所「近江療養院」(近江サナトリウム、現ヴォーリス記念病院)を開設
1938	1938	57	子爵・一柳末徳(ひとつやなぎすのり)の三女、満喜子と結婚
1939	1939	58	ヴォーリス合名会社を解散し、W・M・ヴォーリス建築事務所と近江セールス株式会社を設立。メンソレータム(現・メンターム)の輸入販売を開始
1941	1941	60	大同生命・広岡社長夫妻と共に建築視察旅行
1942	1942	61	『A Mustard-Seed in Japan』を出版
1942	1942	61	『吾家の設計』を出版
1943	1943	62	『吾家の設備』を出版
1946	1946	65	軽井沢会の副会長に選出される
1949	1949	68	母校コロラド大学よりLLD(名誉法学博士号)を受ける。また、同志社大学社友に推薦される
1953	1953	72	近江ミッションを近江兄弟社と改称 出版事業部を独立させ湖群プレス社を設立
1955	1955	74	大阪中央放送局で建築についてラジオ放送
1960	1960	79	日本国籍取得、一柳米来留(ひとつやなぎめれる)と改名。 ヴォーリス建築事務所を一柳建築事務所と改称
1964	1964	83	マッカーサー元帥と近衛文麿元首相との会談実現のために活躍
1966	1966	85	昭和天皇よりねぎらいの言葉をかけられる
1970	1970	89	自伝『失敗者の自叙伝』の草稿を起筆、昭和32年まで『湖群の声』に連載
1974	1974	93	社会公共事業に対する功績により、藍綬褒章を受ける
1976	1976	95	7月、軽井沢でクモ膜下出血のため倒れ、近江八幡の自宅に帰り、療養生活に入る
1977	1977	96	近江八幡市名誉市民第1号に推される
1980	1980	99	日米修好通商百周年に功労者として顕彰を受ける
1981	1981	100	建築業界における功績で黄綬褒章を受ける
1983	1983	102	5月7日、7年間の無言の病床生活を終えて昇天。正五位勲三等瑞宝章を受ける。5月16日、近江八幡市民葬と、近江兄弟社葬との合同葬となり、遺骨は恒春園に眠る

くわしくはこちらから▶gaido.jp/0373



濃 密 !